

とくしまで住んでみんで

＼ 私たちが移住の相談に乗ります ＼

この土地で生きる この人に惹かれて。

徳島は風光明媚な自然のなかに伝統が息づく
”とおきの場所”です。

見る者を釘付けにする鳴門海峡の渦潮や、
平家伝説が数多く残る祖谷地方の山々。
夏の阿波踊りではあらゆる人が踊りだし、
二拍子の音色が空高くまで響き渡ります。

日々の暮らしは丁寧で豊か。

すだちや阿波尾鶏をはじめとするおいしい
食材を新鮮なままいただき、お祭りや藍染め
などの文化と共に、たしかな生活があります。

最近では、新しい風も生まれてきました。
全国屈指の高速プロードバンド環境を活用
し、企業が次々とサテライトオフィスを開設。
趣味のアウトドアと仕事を両立させる人、
山里で起業する人、伝統ある土地のなかで、
様々な人が新しい働き方を実現しています。

この冊子は、そんな徳島への「移住を支援
する人たち」を紹介しています。

田舎に移住するということは、人とのつなが
りの中で生きていくということ。もし移住
するとしたら、そこにはどんな人がいるのか。
それぞれの土地に暮らし移住者の受け入れ
に取り組む方々を取材し、町の魅力や活動
内容、いまの想いなどをお聞きました。

同じ徳島といえども、地域によって人の
雰囲気も文化も違ってきます。それぞれの
魅力を味わいながら、ページをめくって
みてください。その先に、きっとわくわく
するような出会いがあると信じています。

理屈じゃない良さがここにある

TOKUSHIMA



美波町：吉田 基晴さん …P3
美波町：小林 陽子さん …P5
阿波市：春名 尚子さん …P7
阿波市：松永 玉子さん …P9
三好市：元木 香織さん …P11

上勝町：大西 正泰さん …P13
神山町：岩丸 潔さん …P15
那賀町：正木 省吾さん …P17
那賀町：殿谷 加代子さん …P19

楽しみも分かち合うのが美波スタイル



吉田 基晴さん

1971年生まれ 徳島県海部郡美波町出身 株式会社ジャストシステムなどを経て、2003年東京でサイファー・テック株式会社の設立に参画。2005年から代表取締役（現任）を務める。2013年に地域課題の解決を図る地域活性事業会社・株式会社あわえを設立。同社代表取締役社長。

問い合わせ先 株式会社あわえ

徳島県海部郡美波町日和佐浦114番地 Tel 0884-70-5831 info@awae.co.jp

人間らしさを味わえる 最高の環境

美波町の人の特徴は「一緒にやろう、一緒に楽しもう！」というような、楽しみを分かち合うことに対する気前の良さだと思います。この町には今もお地域のコミュニティが残っていて、助けたり助けられたりという良い意味での依存関係があるんです。

そして町の人は、太平洋に面した温暖な気候やお遍路さんへの接待文化があるからか「誰でも仲間にしていこう」というオープンなマインドをもっている。移住者の方にとっても馴染みやすい場所だと思います。この祭りは、町が8つの地区に分かれて太鼓屋台を担ぎます。江戸時代から続く伝統ある祭り、ちようさと呼ばれる太鼓屋台を担ぎ海に入る場面もあり、町中が盛り上がります。



移住を考えている方へ

ここには、そんなオープンなコミュニティに加えて、ウミガメが産卵のために上陸する海、常緑樹がまぶしい山、そして溪流魚あふれる川に囲まれた最高の環境があります。ですから、自然のなかで汗をかき、美味しいものを食べ、遊ぶこと。さらに人のために何かをして役にたつという、とても人間らしい生活があるんです。私は、せっかく人間に生まれたのだから人間らしく生きたいと思いますが、ぜひみなさんにもこの町に来て、そんな人間らしさを味わっていただきたいと思っています。

そのような伝統ある祭りでは「よそ者」は簡単には参加できないことが多いですが、ここでは重要な担ぎ手を担わせてくれるんです。このようなことは祭りに限りません。釣りやサーフィン、飲み会やスポーツ大会など様々な機会のなかで、皆が楽しみを分かち合い生きることを楽しんでいます。

私はそんな美波町で生まれ育ちました。今はこの町を拠点として「日本の田舎をびかぴかにする会社」「株式会社あわえ」を設立し、地域活性事業を行っています。サテライトオフィスや起業家の誘致、それに伴う移住支援も行っています。物件探しや各種手続きはもちろん、移住者が速やかに地域に受け入れられるよう、ソフト面でもサポートをしています。

美波町



MINAMI





「人生全部、引き受けなあかん」
そんな気持ちでやってます

小林 陽子さん

paradies@plum.ocn.ne.jp

1950年生まれ 徳島県海部郡美波町出身 16年間の大阪生活を経てUターン。オペラ公演のプロデュースや実家の新聞販売店を
経営しながら約30年間ボランティアで移住者を支援。現在は美波町嘱託の移住交流窓口「ウエルカムコーディネーター」として活躍。

問い合わせ先 美波町移住交流支援センター

徳島県海部郡美波町奥河内字本村 18-1 Tel 0884-77-3611 somu@town.minami.lg.jp

世話をして、
世話した私も幸せになる

私は今、生まれ育ったここ美波町で移住交流コーディネーターをしています。家の紹介はもちろん、サテライトオフィスの開設や美波町でお店を始めた人の起業支援などもしています。最近の実家の新聞販売店を改装して移住相談オフィスをつくり、日々、移住希望者の相談にのり町の案内などを行っています。この1年で10組以上の移住者を案内しましたが、みんなちゃんと定住していますよ。

移住支援の活動をしている理由は、実家の影響が大きいんやと思います。両親のもと、私もバイクに乗って町中に新聞を配ってまわっていたので、空き家物件はもちろん町のことも人のことも知り尽くしているんです。それはもう恐ろしいほどね（笑）。



小林さん自作の山小屋



移住を考えている方へ

移住者の方には本当に幸せになってほしい。その一言に尽きるかな。その人の人生の責任をとるつもりで仕事をするので、時によってはしんどくなるくらいお世話をしますが、その人が幸せになつてくれればその世話をした私も幸せになりますから。

今の美波は、幸せな生活ができる基盤のある町ですよ。何が良いかって、まず町がとてもコンパクト。目の前には銀行があつて、右には役場、左には郵便局がある。

にもかかわらず、周りは海山川に囲まれていて自然はパーフェクトなんです。それから人が良い。優しいし、お世話焼きやし、移住した人も「この人はすぐに声をかけてくれる」と喜んでいきます。

もう受け入れ体制ばっちりよ！

当時、不動産屋のない時代は空き家相談が新聞販売店に来ていました。

それと、この仕事は私の性分に合ってるんです。私は相談に来る移住者に対して「人生全部、引き受けなあかん」という気持ちでやっていきますが、簡単にいえばお世話焼きなんよ。責任をとるのが好きやねん。でも、だから失敗はしません。あなたがどんな性格で、どういう場所に住みたくて、どんな人と合いそうかなど徹底的に聞いてから空き家を紹介します。

私の経験では、移住の成功は物件ではなく、ご近所さんとの相性で決まりますからね。

美波町



MINAMI





山を見ながら麦の穂を眺める
時が来たら、ものすごく幸せな
ことだなと思う

移住担当として今思っているのは、「これからの人生を幸せに生きるためにどこで暮らそうか」と考えている人が阿波市を選んでくれたら、こんなに幸せなことはないなということです。というのも、私自身そんな場所を探し求めてきたからです。私にとつての幸せは、安全な食がある環境でゆったりと暮らすことです。より良いところを求めて何回も引っ越しをしてきました。

それで一番安全だと思えたのが徳島だったんです。ここは原発の影響も少ないですし、特に阿波市は自然農の農家さんも多い。今私は自分の畑に麦を植えています。その麦が育って、山を見ながら麦の穂を眺める時が来たら、すごく幸せだろうなと思うんです。



それに野菜も本当に質が高い。これまで自然食品を探し求めていた時間をゆとりある暮らしにあてられる価値は大きいと思います。でももちろん他の人の幸せはまた違うと思います。多様な幸せの形に合ったサポートができれば良いと思います。

今取り組んでいるのは、例えば「阿波ベジ」という阿波市の野菜を観光資源としてPRする取り組みです。種類豊富な野菜と阿波市で古くから栽培されてきた小麦をコラボレーションさせて野菜ピザをつくったり、「阿波ベジ☆カフェ」では農産物を使ったカレーやスムージーも提供しています。

食べた人がおいしいとびっくりする顔をみるのは最高に楽しいです。特に地元の人たちに「阿波の野菜がこうなるのか」と驚かれると余計嬉しいですね。

阿波市



AWA



移住を考えている方へ

これからやりたいこともたくさんあります。夢は阿波市の学校給食のパンを阿波市産の小麦でまかなうこと。地域の大人が育てた小麦でつくったパンを子どもたちに届けられたら素敵だなと思うんです。

それから、移住者と地元の人との交流会なども定期的にやっていく予定です。震災以降、東北・関東から阿波市へ移住する人も増えていますから。

まずは遊びに来てほしいです。そして私たちに会いに来ていただきたいですね。



幸せに生きるために
どこで暮らそう

春名 尚子さん

1973年生まれ 大阪府出身 東京と沖縄でマッサージや出版・音楽関係の仕事をし、写真集の総合ディレクターなどを務める。現在は徳島県阿波市に移住し阿波市観光協会に勤務。2児の母。

問い合わせ先 阿波市観光協会

徳島県阿波市阿波町東原173番地 Tel 0883-35-4211 info@awa-kankou.jp

畑は余るほどある
作物はなんでも採れる



松永 玉子さん

1940年生まれ 徳島県阿波市出身 結婚後、養豚場の経営を経て介護施設に勤務。
現在はNPO法人阿波市めだかの学校の理事長を務める。

問い合わせ先 NPO法人阿波市めだかの学校

徳島県阿波市市場町日開谷字野田原 33-7 Tel 0883-38-9067 awanomedaca@ybb.ne.jp

あらゆる野菜が育つ土地 農業をしたい人に来てほしい

阿波市は「育てられん野菜はない」と言われるほど昔から農業が盛んな地域です。阿讃山脈のふもとに広がる中山間地域には、農業に関わる人が多く暮らしています。代々続く専業農家さん、漬け物づくりが得意なおばあちゃん、孫に食べさせる野菜をつくるおじいちゃん。

最近では新規就農者も移り住んでいます。NPO法人阿波市めだかの学校では、採れた野菜を使った料理勉強会も開催していて、月に1〜2回ほど皆で集まり料理をして食べています。大根がたくさん採れたら大根料理をし、ほうれん草が採れたらほうれん草料理をする。皆で作って一緒に食べると美味しさと楽しさを一度に味わえます。



移住を考えている方へ

当法人では「みんなでお米を育ててみんでき」という田んぼイベントも開催しています。田植え、草とり、稲刈り、餅つきやしめ縄作りまで、お米に関するほぼすべての過程を体験するイベントで、年4回のプログラムになっています。今年も県外から移住した10組以上の親子が集まりました。田植えの時には田植えそっこのけで泥んこになって遊ぶ子どもたちの姿も見られ、皆楽しそうでした。ちよつとした宿泊スペースもありますので、移住を考えている方はぜひ一度足を運んでみて下さい。

他にもイベントを企画すると移住者の方も多く参加して下さるので、地元の人との良い交流の場になっています。またイベントの他にも、「阿波ベジBOX」という阿波市で採れた野菜をセットにして発送する取り組みも行なっています。そこには代々続く専業農家さんのお野菜だけではなく、新規就農者として近年移住してこられた方が作った新しい種類のお野菜も入っています。私の想いは、地元が活性化して若い移住者に一人でも多く来てほしいということです。町がもっと賑やかになり、小さい子どもの声を聞けたらなあ。

阿波市は気候が温暖で自然豊かなので暮らしやすくとも良いところですよ。市として子育て支援にも力を入れていて、小学生まで医療費は無料です。

阿波市



AWA





「きせる」はみんなの
よりどころなんです

元木 香織さん

1978年生まれ 徳島県三好市出身 NPO法人マチトソラ事務局員。同法人が協力するマルシェが地元三好市で開催され、実家の和菓子店が出演したことを機に理事と知り合う。昨年度は県の委託を受けサテライトオフィス誘致促進事業などを行う。

問い合わせ先 NPO法人マチトソラ

徳島県三好市池田町マチ2467-1 Tel 050-3476-1769 info@machitosora.com

場所から始まるひとびとの輪

私たちが今いるこの「スペースきせる」は築150年の古民家を改装した建物で、みんなの「よりどころ」になっています。NPO法人マチトソラの事務所も兼ねており、いろいろな方が出入りしています。昼は事務所として使用し、夜はバーに様変わりします。夜のバーはワイワイと楽しいですよ。バーの店長は東京からの移住者なのですが、よくイベントを企画してくれるんです。明日も「牡蠣ナイト」というイベントで牡蠣料理がふるまわれます。ですからここには移住者はもちろん、地元の若者や40代・50代のおじさんやおばさんもふらりとやって来ます。ここはそういう交流の場があることや、四国の中心地として商業の中継地点だったこともあり、地元の人に移住者の取り組みに協力的です。



例えばNPO法人マチトソラが協力する「うだつマルシェ」という大規模なマーケットの時も、家の前をテナントでふさぐ形になるにもかかわらず喜んで力を貸してくれました。昔から新しい人や物が入ってくる環境だったため、受け入れる土壌があるんだと思います。

集まってくる移住者も個性的で面白いですよ。都内からIターンしてきたデザイナーの女性は、今は起業して廃校を活用したカフェを開き、雑誌やメディアによく取り上げられています。実家のいちご農家を継いだ後に起業した男性などいます。良い意味で変な人たちが刺激になりますね。

移住を考えている方へ

NPO法人マチトソラでは、移住者やサテライトオフィスを検討される方々のために『にし阿波のこれから』という小冊子を作成しました。「スペースきせる」に集まる面白い人たちが、徳島県西部で新しく進んでいる取り組みを掲載しています。ホームページでも、移住された方がどのように働き、暮らしているかを紹介していますのでぜひ見てみてください。

また移住支援だけでなく様々なイベントも行っています。一番大きなイベントである「うだつマルシェ」には四国全県からのお店が100店舗ほど並びます。古いうだつの残る雰囲気ある町並みの中で、作り手や出展者との会話が楽しめますよ。



MIYOSHI



”幸福“を再生産できる仕組みをつくりたい



大西 正泰さん

1970年生まれ 徳島県三好市出身 鳴門教育大学大学院を卒業後、社会科教員などを経て2006年に起業。2013年に一般社団法人ソシオデザインを設立、代表理事を務める。現在は徳島県上勝町を拠点として、起業家の育成や地域再生事業を展開。

問い合わせ先 一般社団法人ソシオデザイン

徳島県勝浦郡上勝町正木字平間 194-3 Tel 050-3438-9519 info@socio-design.net

「シェア」だからできる

移住支援と起業家育成

僕は以前から地域再生で大事なものは東京と競い合うのではなく、全く別のベクトルで何かしらの付加価値を生むことだと思っていました。正反対のところに価値を生み出し、それを基盤とした社会をデザインする。では地域における価値とは何かと考えた時、そもそも都会と田舎では幸福の定義や感じ方が違うと思ったんです。競争原理が根底にある東京では必要以上の需要を喚起して得たお金で幸せを消費している。

一方で田舎では、お金ではなく人と人とのコミュニケーションやゆとりとした時間のなかで幸せを感じます。ホッとするような幸せを自ら生産していますよね。僕の目的はそのような幸福を再生産できるビジネスをつくることだと思っています。



カフェの軒先には獣の皮が干してある



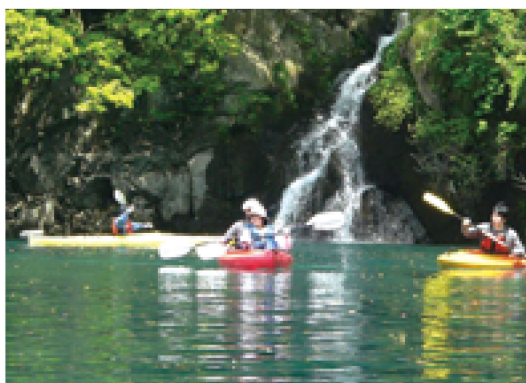
そしてその一つがシェアカフェという仕組みです。シェアカフェ「いちじゅのかげ」では20代から60代のシェアが日替わりで料金をふるまうて、そこに様々な人が集まってきました。するとホッとする田舎の雰囲気の中で人と人の偶然の出会いが生まれ、都会では味わえないワクワク感を味わえます。これは田舎でしか発生し得ない「幸福感」だと思います。

このことは移住支援や起業家育成にも直結します。シェアにとつては、移住や起業の一つのステップになりますし、地元と移住者の交流の場にもなる。働く機会を増やすことは、町の多様性を取り戻す効果もあります。「シェア」により人と人が結びつき、その中で田舎ならではの幸福が再生産されているのです。

移住を考えている方へ

上勝町のすごいのは、町全体が「新しい何かをせないかん」と思っているところだと思います。だから起業や移住をしやすい環境がある。一方で僕は移住者の方によく「焦らなくて良い」と言っています。起業や移住にはやはり準備期間やステップが必要ですし、移住者の中には無理にとけ込もうとして焦る方が多いですが、良い意味で異物であり続けることも大事だと思うんです。ですから、気負わずばちばちと、でいいんじゃないかと思っています。

草刈りせなあかん、とか慌てっていると疲れてしまいますからね(笑)



KAMIKATSU



移住者の若いもんは情報通やし、
発想が豊かで、たちうちできんからなあ・・・



岩丸 潔さん

1948年生まれ 徳島県名西郡神山町出身 京都の呉服屋見習いを経て、実家の衣料品店（有）岩丸百貨店の4代目店主。
NPO 法人グリーンバレーの設立時から携わり、理事を務める。グリーンバレーでは移住交流と神山塾生のサポートを
担当し、移住者などからは「地域のお父さん」として親しまれている。

問い合わせ先 NPO法人グリーンバレー

徳島県名西郡神山町神領字中津132 Tel 088-676-1177 greenvalley.kamiyama@gmail.com

優秀で多様な人材が集まる理由

いま神山に集まってきている若いもんはすごいですよ。みんな発想が豊かで目的意識をもっている。いろんなキャリアを持っているし、情報通やし勇気があり、たちうちできないです（笑）。最近ではサテライトオフィスなど有名になって専門家やNPO、行政視察も絶えないですが、一方で大学生や企業を退職した人などといった若い視察・移住者が多く訪れて来てくれます。神山に多様な人たちが集まる理由は、この土地独特の「ゆるさ」があるからやと思います。そのスタンスを一言で言えば「来る人は来てかまへんし、帰る人は帰っていい。そんでもって、来る人にはすこくウェルカム」という感じ。強制的ではないゆるやかなスタンスがあるからこそ、自分の生き方を求めている人が入り込む余地が生まれ移住交流が起きるんでしょう。



その背景には、神山の移住交流は他の地域と違い「民間主体」で推進していることが挙げられます。だから補助金や国の施策に合わない人でも来る事ができる。移住者がまた他の移住者を呼び、どんどん人が集まって来ています。

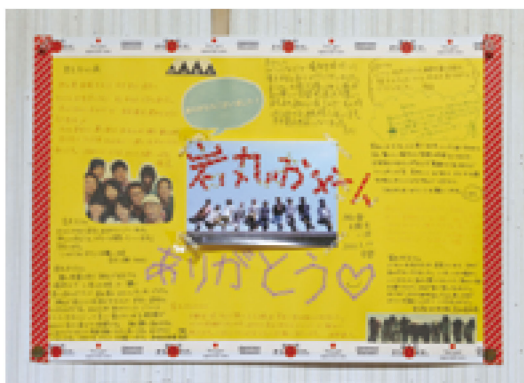
今一番ありがたいのは、その移住者たちが神山の魅力を再発見してくれていることです。お互いに相談し合いながら、神山をどうしようかと話し合い、地域づくりをしている。そういう意識ができたことは嬉しいですね。

ちなみにこれまでの6年間で1200人ほど世話をしましたが、移住者同士のカップルや結婚した人も多くいますよ。みんな機嫌良く暮らしている（笑）。

移住を考えている方へ

人を求めてくるんだつたら、神山は良いところですよ。移住者同士の交流はもちろん、全国の優れた人が集まってきましたから刺激になると思います。この家でも3日に一回くらいのペースで視察者や若い人を囲むパーティーをしています。異なった出身地やキャリアを持った人たちがこたつを囲み、親しく楽しそうに話をしていますよ。

ただ、現在移住希望者に対する空き家の数が不足しています。お問い合わせをいただいても対応できないことがありますのでその点はご了承ください。



KAMIYAMA



神山町

空気や水がきれいなところで
子育てをしたかった



正木 省吾さん

1979年生まれ 大阪府豊中市出身 妻子と共に2012年に徳島県那賀町へ移住。
山村留学センター結遊館館長。好きなことはいろいろ自分で作ってみること。

問い合わせ先 山村留学センター結遊館(ゆうゆうかん)

徳島県那賀郡那賀町木頭北川棚ノ奈路53 Tel 0884-69-2717 office@yuyukan.net

いつも、あたたかく見守って
下さる地域の方々

私が移住を考え始めたのは、ちょうど子どもが生まれた頃でした。田舎暮らしにはもともと興味がありましたし、空気や水がきれいなところで子育てをしたかった。当時住んでいた大阪の自然食品店で開催されていた那賀町の写真展をきっかけに、この町に足を運びました。そうしたら豊かな自然と地域の人柄にとても惹かれた。「帰り道はこの道は通らん方がええ」などと親身になって案内してくれて、その後のイベントなどにも参加して移住を決定しました。地域の方々は、私たちが困っているとすぐに声をかけてくれるのですごくありがたいです。地域の目がしっかりあるのです。子どもたちを見守ってくれるし、何かにつけて「鹿肉いるから」とか「野菜いるから」などと心配って下さる。



以前「使わなくなったお皿や鍋ありませんか？」と呼びかけたら、すぐにいろんな方が持ってきて下さったので驚きました(笑)。そんなあたたかい町のなかで、私は結遊館という山村留学センターで留学生の生活サポートをしています。山村留学とは、山村留学センター結遊館で共同生活をしながら、地元の小学校に通学するという長期体験型山里ステイです。小学校1年生から6年生まで、基本的に1年を期間として受け入れています。子どもたちと共同生活を送り、私は「正木さん」妻は「ちーちゃん」と呼ばれています。お子さんをお預かりする中で大事にしているのは「自立心を養うために自分のことは自分でやる」ということです。お皿洗いや洗濯物干しなども自分たちですべてしてもらっています。

移住を考えている方へ

ここはこんな山奥だからこそ、都会にはない貴重な経験を積めると思います。春は山菜を採り、夏はヒグラシの鳴き声を聞き、秋には高ノ瀬の紅葉を見て、冬は柚子の香りに包まれる。そんな大自然の四季を感じながら暮らすことができます。平日でしたら結遊館や学校も見学することができますので、気になる地域があれば、お子さんと一緒にどんな足運んで、イメージを固めてみてください。



NAKA



那賀町

ふるさとへもんてこい



殿谷 加代子さん

1953年生まれ 徳島県那賀町出身 県外の看護学校を卒業後、ふるさとの棚田に稲穂が実った風景やあたたかい人情が忘れられず、保健師として旧相生町（現那賀町）に就職。長い間地域の人と関わる。2009年に結成されたもんてこい丹生谷運営委員会発足時からの中心メンバーで、現在は会長として町の未来のために奮闘。その他にも那賀町内の地域団体・ボランティア団体の役員をはじめ数々の活動に携わっている。

問い合わせ先 もんてこい丹生谷（にゅうだに）運営委員会

徳島県那賀郡那賀町和食郷字八幡原23-1 那賀町郷土館1階 Tel 050-8809-7807 montekoi@whk.ne.jp

離れていた心をつないだ

「もんてこい」の声

「もんてこい丹生谷」の始まりは、当時那賀町へ取材に訪れていたあるノンフィクション作家の一声からでした。ふるさとを離れた子どもや孫に戻ってきて欲しいけれど、「もんてこい（那賀町の方言で「帰ってこい・戻ってこい」という意味）」と言えずにいた老親たちをみて「帰ってこいなら、こちらから会いに行こう」と提案。それをきっかけに、積みもった気持ちが行動へと変わりました。「ふるさと」をまるごと届けるために64人のおばあちゃんたちが14時間もバスに揺られ東京へ乗り込み、東京・品川で「那賀町祭&中野建吉写真展」を開催。会場には那賀町出身者と町内から参加したスタッフの総勢300名もの人が集まりました。



ヘルスメイト（那賀町食生活改善推進員）による手づくりの郷土料理や古くから伝わる人形浄瑠璃と阿波踊り、おばあちゃんのビデオレターやミュージカルで「ふるさと」と参加者の心をつなぎました。この時両親の「もんてこい」というビデオレターを観た息子は、3年ぶりにふるさとに戻り、その際に今まで写したことのない家族写真を撮りました。父親はその家族写真をいつも眺め、実際の距離は縮んでいないが家族の心の距離は近くなったと語っています。その後もこのイベントは私たちの活動の柱となり、内容をパワーアップさせながら翌年以降も開催し、実際に那賀町に約100人もの人が戻ってきています。

那賀町

移住を考えている方へ

しかし少子高齢化が進み、町から毎年約200人ずつ人が消えているのも事実です。この現状に何とか歯止めをかけ、町を元気にし、若者に戻ってきてもらうために私たちは活動を続けています。

これからはUターンで「もんてこい」人だけでなく、Iターンで若い人にも移り住んでほしいですね。那賀町は良い町ですよ。みんなの町を愛する心が凄いです。

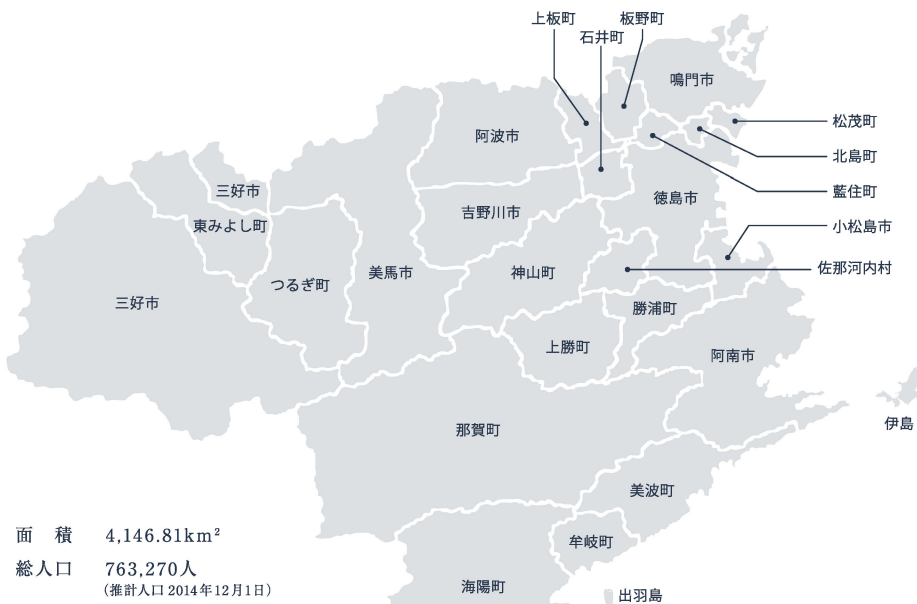
昨夏に台風で浸水被害があった時も、町内からボランティアが約300人も集まって住民同士で助け合いました。那賀町に戻ってきた人・移ってくる人には、私たち「ようもんてきたなあ」と様々なお手伝いをしますよ。笑



劇団もんてこい丹生谷ミュージカル

NAKA





面積 4,146.81km²
総人口 763,270人
(推計人口 2014年12月1日)
人口密度 184人/km²
県の木 ヤマモモ
県の花 すだちの花
県の鳥 シラサギ

市町村の相談窓口

徳島市	経済政策課	☎088-621-5225
鳴門市	商工政策課	☎088-684-1158
小松島市	秘書政策課	☎0885-32-3802
吉野川市	商工観光課	☎0883-22-2226
阿波市移住交流支援センター		☎0883-36-8700
勝浦町移住交流支援センター		☎0885-44-2110
上勝町移住交流支援センター		☎0885-46-0111
佐那河内村移住交流支援センター		☎088-679-2113
石井町	総務課	☎088-674-1111
神山町移住交流支援センター		☎088-676-1177
松茂町	総務課	☎088-699-8710
北島町	生活産業課	☎088-698-9806

藍住町	企画政策課	☎088-637-3124
板野町	産業課	☎088-672-5994
上板町	企画防災課	☎088-694-6824
阿南市移住交流支援センター		☎0884-22-7404
那賀町移住交流支援センター		☎0884-62-1184
牟岐町移住交流支援センター		☎0884-72-3420
美波町移住交流支援センター		☎0884-77-3611
海陽町移住交流支援センター		☎0884-73-4156
美馬市移住交流センター		☎0883-52-8009
三好市移住交流支援センター		☎0883-72-7649
つるぎ町移住交流支援センター		☎0883-62-3111
東みよし町移住交流支援センター		☎0883-82-6302

徳島県

四国の東部に位置し、東は紀伊水道に面し、北は香川県、南は高知県、西は愛媛県に接しています。山地が多く、県全体のおよそ8割を占めています。

県内の最も高い山は剣山で、標高1,955メートル、四国第2の高山です。その北側を流れる吉野川は「四国三郎」の異名をもち、全国一の清流のひとつにも選ばれています。そうした恵まれた自然の中で、農産物・海産物の生産が盛んで、すだちや鳴門金時、ハモやわかめなどの特産物がたくさんあります。特に関西圏には、大鳴門橋、明石海峡大橋で結ばれている利点を活かし、たくさんの県産品が出荷されています。

また、自然の地形を活かし、サーフィンやスキューバダイビング、ラフティングなどのアウトドアスポーツも盛んに行われています。



剣山



大歩危・小歩危



吉野川



大浜海岸

TOKUSHIMA

理屈じゃない良さがここにある

〒770-8570 徳島県徳島市万代町1丁目1番地
徳島県政策創造部地方創生局地方創生推進課

TEL: 088-621-2701 chihousouseisuishinka@pref.tokushima.lg.jp